

第1章 下水道ビジョンの趣旨

1. 策定の趣旨
2. 下水道事業に関連する持続可能な開発目標(SDGs)

第1章 下水道ビジョンの趣旨

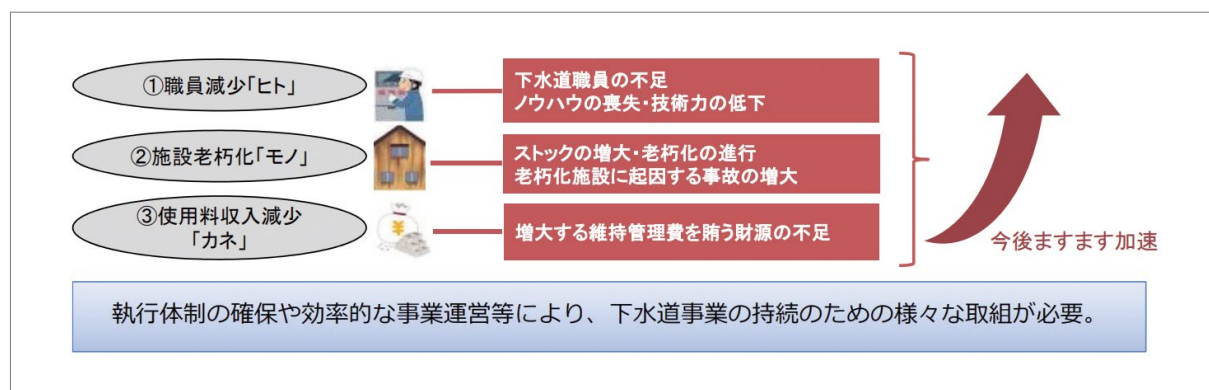
1 策定の趣旨

人口減少や少子高齢化などにより、社会構造が大きく変化し、労働力の不足や社会機能の維持が困難になることが懸念されています。また、近い将来に発生が予測されている南海トラフ地震や激甚化・頻発化している集中豪雨による浸水被害などの災害への対策も喫緊の課題となっています。

さらには、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、新たな生活様式への対応が必要となってくるなど、社会を取り巻く環境は大きな変化に直面しています。

下水道^{*}は、生活環境の改善、公共用水域^{*}の水質保全及び浸水被害の防除の役割を担う重要なライフラインです。しかしながら、現在の下水道事業は、職員の減少や施設の老朽化、使用料収入の減少の三重苦にあります。

このような状況のなか、本市の下水道事業を将来に渡り、安定的に運営していくために、今後の下水道事業が進むべき方向性を示す計画として、刈谷市下水道ビジョンを策定するものです。



(出典：国土交通省ホームページ)

下水道事業の現状・課題

コラム

<下水道の役割>

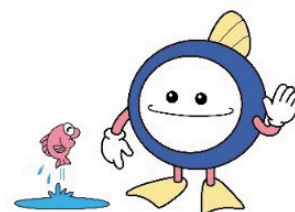
・生活環境の改善

汚水をすみやかに排除するのでハエや蚊、悪臭の発生源をなくします。また、汲み取り便所^{*}が水洗化されることにより、衛生的な生活ができるようになります。



・公共用水域の水質保全

汚水を管きょ^{*}に流して終末処理場^{*}に集め、きれいな水にして川や海に流し、自然環境を保ちます。



・浸水被害の防除

川や水路と同じように、雨水をすみやかに排除し、浸水の被害から私たちの生活を守ります。



コラム

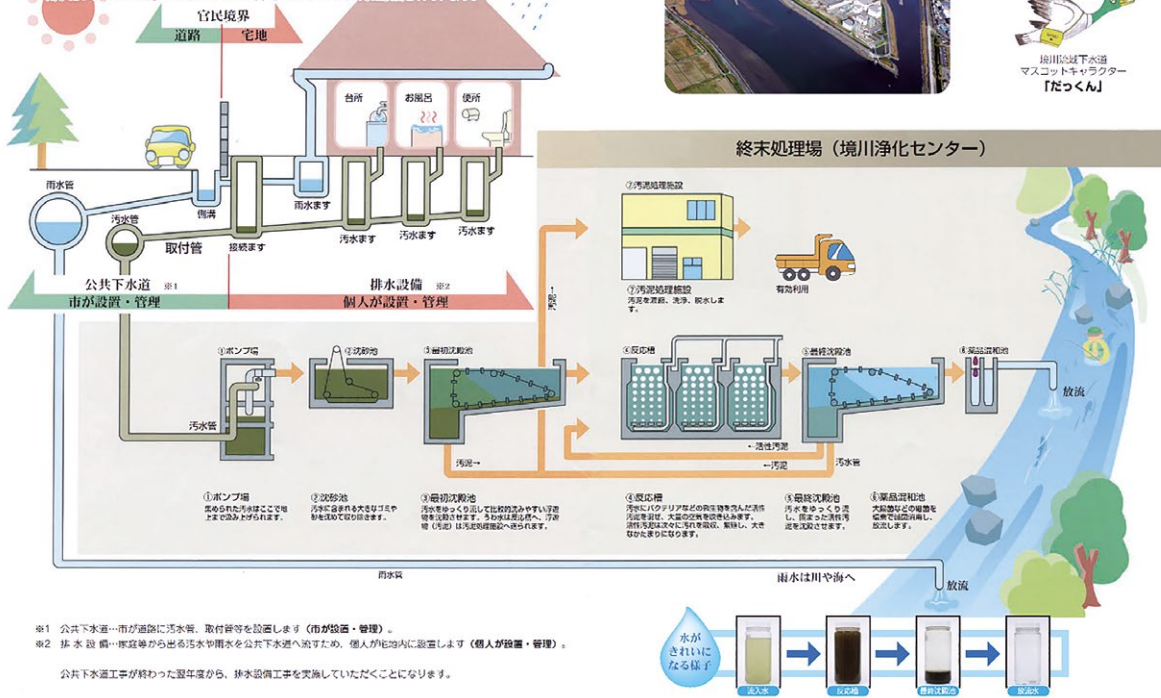
<下水道のしくみ>

各家庭や事業所の汚水は、道路に埋設されている汚水管きょを通して終末処理場（境川浄化センター）できれいな水にして、川や海に放流されています。

雨水については、道路に埋設されている雨水管きょを通して、川や海に放流されています。

下水道の仕組み

家庭や事業所の汚水は、道路に埋設されている汚水管を通して終末処理場（境川浄化センター）できれいな水にして、川や海に放流されています。
雨水については、道路に埋設されている雨水管を通して、川や海に放流されています。



※1 公共下水道…市が道路に汚水管、取付管等を設置します（市が設置・管理）。

※2 排水設備…家庭等から出る汚水や雨水を公共下水道へ送るため、個人が宅内に設置します（個人が設置・管理）。

公共下水道工事が終わった翌年度から、排水設備工事を実施していただくこととなります。

（出典：「かりやの下水道」）

下水道のしくみ

2 下水道事業に関連する持続可能な開発目標 (SDGs)

持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) とは、令和 12 年 (2030 年) までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



本市の下水道事業においては、本ビジョンの施策を展開することで、SDGs の推進を図るものとします。



刈谷市下水道事業に関連するゴール